
灰肌寒い神無月

CHU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仄肌寒い神無月

【Nコード】

N6983U

【作者名】

CHU

【あらすじ】

その日は平年に比べて暑かった。

嫌な汗が止まらないのはきつと——、きつとそのせいだろう。

（前書き）

＜題材＞はた迷惑な 川 抱き寄せる もう大丈夫」ギャグっぽく
やってみよう！

＜ 診断メーカー

意味も無く走っていた。

止まらない足、止まらない汗――。

土手道をすれ違う人は皆、奇異の目をこちらに向ける。

何故走るのか、走っているのか――正直な所、自分でも分かっていない。たぶん、走る必要も無いだろう。

ただ、ある種の脅迫観念にも似た衝動が自分を突き動かしていた。
『アイツを早く探し出せ』と――。

もったりと足に絡み付く漆黒のロングスカートは、走ることを遠回しに――だが、強固に抗議している。

十月も半ばに差し掛かっているが、頬を撫ぜる風は仄温かい。

通気性というものを知らない白のブラウスとコルセットとの相乗効果もあり、自分は今汗だくだった。

俗に云う「メイド服」に身を包み、更に走ること地球時間で五分ほど。

川岸に立つ“アイツ”を見つけた。自分にこんな格好をさせた元凶――幼馴染み。

長い付き合いだから、何となく、どこに居るか分かっていた。

学園祭の出し物『仮装喫茶』で、自分が引いた役所はメイドさん。その衣装を用意したのがアイツ。

着替えた自分の姿を見たクラスメートの反応は、思いの外上々だった。本人の心中を知る由もなく。

そんな中、アイツだけは仏頂面で、フイっとどこかに行ってしまった。

だから、自分はアイツを探してる。

やるべきことをやるために。

足音と気配を消し、暗殺者になったつもりで近付く。背後から、ゆっくりと。

射程内に入っただのを確認後、腕を回して抱き寄せ、耳元で優しく囁いた。

「——見つけた」

抱き締めた瞬間、ビクツと硬直したコイツ。自分を抱き締めたのが誰か理解すると、観念したのか硬直を解いた。

「……お前ツ、追い、かけてツ、来たのか。……その衣装の、ままで」

「そりゃそうだ。やることあったから」

“俺”の返事を聞いたコイツは、再度身を固くした。

抱き寄せるために回した腕は、今はコイツの首にチョークを決めるために使っている。完全に決まった三角締めからは、屈強なメリケンだろうが逃げられない。

「……お前ツ、やっぱり、怒ってるんじゃないかッ!？」

「違うよ。超怒ってるんだよ」——と、俺の腕の中でもがくコイツに囁き、「もう大丈夫だ。死ね、クソ野郎」——と、吐き捨てる。

そのまま、“男二人”で十月の川面にダイブした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6983u/>

灰肌寒い神無月

2011年10月9日10時29分発行